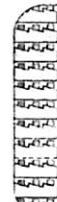


総選挙について

片桐義之

私たち治安維持法犠牲者國家賠償要求同盟は、「再び戦争と暗黒の政治を許さない保証」として、犠牲者の名誉回復を目指して国家賠償法の制定実現に取り組んできました。しかし自公政権では安保法制の强行にみられるように、その実現のめどは立たず政権の交代以外実現の見通しは立たない現状でした。

そんな中、今回の選挙は四つのチェンジの政策と政権構想を掲げて政権交代を目指す野党共闘が実現し、市民との協働で自公政権の継続を許さない現実的見通しが立つてきました。私たち同盟も、憲法九条を守り目的実現



総選挙について



岐阜県版
第376号
2021年11月15日

治安維持法国賠同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7-13
岐阜県教育会館308号室
Tel 058-252-5366
振替00840-2-88638

私たちの運動の基本 ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する惡法である事を認めるここと
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

を目指して力一杯努力しました。しかし、残念な結果になりました。

選挙の結果については、詳しく分析されるでしょうが多くの成果を挙げることができたと思います。

野党が候補者を一本化した選挙区では、自民党の幹事長を落選させ幹事長辞任に追い込まれました。石原派の領主である石原伸宏氏

を落選させました。その他、大臣経験者を多く落選させました。また、統一候補を、落選とはいえない多くの選挙区で僅少さの接戦に追い込みました。

いま的小選挙区選挙では、野党がバラバラに戦つては政権交代は望めません。

政策で合意し、政権構想で合意し、その中身で国民の審判を仰ぐ以外自公政権を倒すこと这是できません。その意味では、歴史的第一歩を踏み出したといえるでしょう。

武藏大学教授永田浩三さんは「市民と野

せんか。
安維持法犠牲者の名譽を回復し「再び戦争と暗黒政治を許さない」政治を実現



尾張徳川家19代目当主・徳川義親氏
貴族院本会議で「治安維持法案」反対
の演説!

岐阜支部 堀田 紀治

時代は、一九二九年三月一九日、貴族院本会議では、治安維持法案の採決が行われようとしていた。



を脅かしかねないとして世論の反対は強く、衆院で可決された時は「満天下の非難をよそに、生まれ出る悪法案、多数の力でひた押しに遂に衆院を通過す」と報じられている。

貴族院での審議時間は、ごくわずか。そういう状況での採決に、侯爵・義親氏は「特権階級中の特権階級である我々がこの法案に賛成せぬのは、勇気がいる」とと断りつつ、「治安維持法というが貧困という根を絶たねば、過激思想という葉も枯れぬ。政府は言論弾圧など乱用を許す曖昧な点はない」というがとても信じられぬ。ひとたび誤用されたならば、その結果は極めて恐ろしいものになると。

そんな「殿様」の警鐘は、その後の進展や今日の情勢からみても重要な警告ではないだろうか。

「不屈」岐阜県版を見て

畠田 重夫

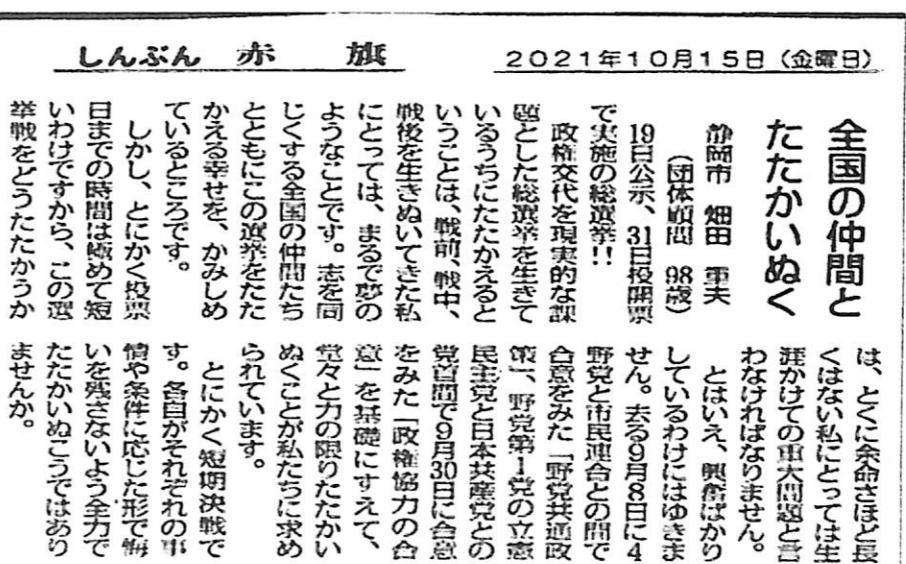
「不届」の岐阜県版のハガキ
ナンバーをたくさん同封くだ
さいまして誠にありがとうございます

「不屈」岐阜県版を見
畠 重井

ざいました。
終日身をベットに横たえる
日常生活ですので大きなライ
ト付きのルームでゆっくりじつ
くり拝読させていただきまし
た。

同盟のことは中央から地方
組織のことまで十分知りつく
しているつもりですが、恐らく
岐阜県版の機関紙のように
着実に、しかも豊富な内容の
県機関紙はあまりないので
と感心しています。恵那もふ
くめ岐阜県には輝かしい不屈
の伝統があることをあらためて学ばせていただきまし
きました。

コンチクショウ（注）の政治は、安倍・菅両政権
はもとより、岸田政権にも残念ながらいささ
かの変化もなく今日に引き継がれています。
竹中平蔵は、典型的な新自由主義者でした。
今なお、自公政権のカゲの相談役の仕事を続
けています。



(注)不屈十月号に「コンチクショウ」を書きまし
た。コンは北朝鮮の金、チクは竹中平蔵、ショウ
は小泉純一郎、新自由主義を推進した小泉・
竹中路線のことを表現したのが畠田先生でし
た。それで「不屈」岐阜県版4月～10月号分
をお送りした御返事です。(上野英美)

「へたな事」言うと事件はますます拡大していく事を恐れた。憲兵はそれだけの迫力をもつていた。

曾我留吉をはじめみんなにも人気があった紅屋という「カフエ」の女給大柄かず子は目がくりつとした可愛らしい娘だった。彼女が「水平社」出身であることは憲兵もつかんでいて岩井は自分の証言一つで彼女を「しようびく」検束されることを恐れた。

取り調べは執拗で憲兵「水平社」を巻き込む事。「女性をしようびく」事に異常な関心を持つていた。

岩井は必死になつて彼女を「きおろし」「そんな大それた女ではない」と答えた。が、実際には彼女は全国水平社の、この地方の連絡員でした。

(二) 北原泰作と水平社



憲兵は事件を大々的にするために『県立中津高等女学校』と『勝野生糸工場』に同志がいるだろうと追求したが、それは否定し、知らないないと答えた」と話した。

憲兵の取り調べの最後は私だった。私は取り調べに対し一切黙秘することは難しいと考え、曾我留吉が出席していた会議や行動に限り取り調べに応じた。

一九二八年春頃から、東京慈恵大医学部にいた中津出身の山川芳也君が帰省の度ごとに十数冊の書籍を持って来てくれた。本や雑誌は中津のようないい田舎では手に入れようととても入らない物ばかりであった。マルクスやエンゲルス・レーンの本・日本資本主義発達史・「戸坂潤」の唯物論哲学者等、雑誌では昭和初年頃から全盛を誇ったプロレタリア文学の作家がきそつて投稿した雑誌類が相当の数になつた。

岩井さんが「これだけの本・雑誌を私の家に置くのは危険だから東小学校のすぐ下に家の田んぼにある小屋に呑を入れて隠した。山川君にも警察に知られない絶対安全な所に隠してある」と伝えた。

そして主たる同志に一冊

戦前の恵那地方の反戦・平和の闘い(6)

惠那支部 田口 進

(一) 叻(かます)に應じた本

ずつ取り出して回し読みするようにした。

人の同志が私の家に訪ねてきて「実は曾我吉の事で朝鮮から来た憲兵に取り調べられた」と言つた。

「ずつ取り出して回し読みするようにした。私達は」の本と雑誌のおかげで「社会科学的なものの見方、考え方」を学び理論を勉強することが出来た。

一九二九年八月頃、東京から帝大生「島田」と名のる学生が訪れて来て「みんなに東京の情勢を話したいから一度会合を開いてもらいたい」と絶対安全な人に限定してと言つた。

すぐに手配して上金クラブに十数人集まつて彼の話を聞いた。話の内容から彼は共産党の活動家ではないかと思ったがそれは口に出すべきことではないので疑問のまま胸にしまつておいた。のちに彼は苗木出身の人であることが分かつた。

「特高月報・岐阜県民の闘いと群像・治安維持下の思想弾圧」についての資料をみると彼は大学時代から共産青年同盟で活躍し、「日本交通労働運動」で活躍中に警察に捕まり「農大を退学」させられている。

治安維持法違反で実刑を科せられたが、戦後は農協に入り理事長歴任、農協合併後も理事長を務め、山間地農業の発展のために尽くした。

(一) 山村にも弾圧の嵐が

一九三一年四月始め、私は(岩井)早朝中津署に検束された。午前中何も知らされず「M室」にいただけで帰された。その夜、二〇三

あらゆる分野に許認可権を持つていた事が大きな理由です。行政分野は営業、衛生、工場、建築、経済活動に於ける業務が行われ、これらの行政事務に関する許認可の行政処分、法規の制定、違反、規則、法律、検査、処分、土地建物の強制収容、個人の財産権等にも強力な権限を持つていました。

北原泰作は昭和二年、岐阜六八連隊に入隊することになったがその頃、「全国水平社解放同盟」の指導者になっていた。

陸軍省は、この事件には頭を痛めた。天皇が受け取つてしまつた「直訴」を不敬罪にする事は出来ず困つてしまつた。軍法会議の結果、「懲役一年」にした。

全国水平社、共産主義、社会主義運動、労働運動、農民運動、文化運動、学生運動、左翼運動、すべてが「治安維持法」の取り締まりの対象であつた。

昭和三年の改正で、それまで「十年以下の懲役」だつた罰が、死刑・無期・五年以上の懲役」と重くされました。

曾我留吉をはじめみんなにも人気があった紅屋という「カフエ」の女給大柄かず子は目がくりつとした可愛らしい娘だった。彼女が「水平社」出身であることは憲兵もつかんでいて岩井は自分の証言一つで彼女を「しようびく」検束されることを恐れた。

取り調べは執拗で憲兵「水平社」を巻き込む事。「女性をしようびく」事に異常な関心を持つていた。

岩井は必死になつて彼女を「きおろし」「そんな大それた女ではない」と答えた。が、実際には彼女は全国水平社の一の地方の連絡員でした。

映画千代子運動情報

No.22

21.10.11

桂監督・同盟映画千代子チーム・「製作を支援する全国の会」事務局

共同発行

◆松本にて・取材チーム(藤田廣登・井藤英治・風間秀子・植村恵美子)

5回の治安維持法弾圧(1929-40)受けた 旧制松本高校から 歴史的選挙と同時進行で撮影開始!



◆東京女子大社会科学研究会を作ろうと
提案する伊藤千代子(写真奥手中央に立
つ袴姿・主演=井上百合子さん)とロケ撮
影隊。旧制松本高校校舎をバックに
(21.10.11 午前)
- 激々しく力強く発声し演技する井上百
百合子さんは、伊藤千代子の姿そのものだ。

10月11日午前8時半、松本平は雲一つない快晴。歴史的映画撮影が開始された

この日の映画「わが青春つきともー伊藤千代子の生涯」の撮影は、長野県の民主的勢力が市民と共同して残してくれた戦前の歴史が刻み込まれた文化遺産である旧制松本高校校舎と旧松本裁判所(国の重要文化財指定)内で行われた。

午前中の撮影は、松本平の中心地／県(あがた)の森に桂荘三郎監督のもとに集結した20人のロケ隊が早朝から準備した旧制松本高校校舎内と校内芝生を東京女子大に見立てたシーンから開始。

午後からは、旧松本裁判所が移築された「歴史の里」に現存する少年院独房を使って伊藤千代子が塩沢富美子(共青同盟員、のち野呂栄太郎夫人)らと「再会」し、激励しあい、獄中闘争を展開するシーンが中心に置かれた。

撮影隊は、12日も松本で伊藤千代子と浅野晃の話し合いシーン、千代子らをかばう嵐圭史氏扮する老人などを撮影、13日は奈良井宿に結集した国賠同盟員らのエキストラのビラ配りや受け取り手の撮影。14日はいよいよ伊藤千代子の生地・諏訪に移動し、浅野晃プロポーズシーン(高島城)、墓所・顕彰碑、又いとこの平林せんの墓参シーンなどの撮影が予定されている。

今後の予定 この後、撮影隊は山梨県本栖湖(諏訪湖シーン)、小田原郊外の南足柄市での高島小学校シーンなどを撮影、17-18日は再び松本に移動。山一林組争議シーンなどの撮影に続く。後半は、茨城県での労農党本部事務所、女子大学生寮シーン、千葉県木更津市と御殿場での松沢病院シーン、埼玉県深谷市での特高警察の追跡をかわす千代子、安井てつ東京女子大学長役出演の竹下景子さん撮影などが予定されている。いずれも国賠同盟呼びかけのエキストラ出演者が続々と登場する。

映画製作資金350口に到達 奇しくもこの日、治安維持法倍同盟北海道本部と山形県本部からの各1口の「製作資金(上映債権)」が事務局に到着し、349口目、350口目を達成。撮影開始時の財政的基盤を確実なものとすることことができた。

今各地で450口をめざす取り組みが力強く進み始めている。震災で打撃をうけた福島県、高齢化の困難に直面した茨城県や鹿児島県等でも治安維持法国賠同盟と共に民主勢力が力を合わせて実行委員会を作りつつあり、今後の発展につながる展望が開かれつつある。秋田県、宮城県、岩手県など東北各県での取り組みも着実に前進。

全国の牽引車となっている北海道では、全道に運動が広がり51口まで到達しつつあり、近く全道実行委員会の結成が行われる。22年からの上映運動をにらんで全国過半数に全県規模の実行委員会作りが進行している。